

2025年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年7月12日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ

上場取引所 東

コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

TEL 03-6635-1847

四半期報告書提出予定日 2024年7月16日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第1四半期の連結業績(2024年3月1日～2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	545	25.4	109		93	889.3	91	
2024年2月期第1四半期	731	29.8	8		9	91.3	6	93.4

(注) 包括利益 2025年2月期第1四半期 128百万円 (%) 2024年2月期第1四半期 12百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第1四半期	38.55	
2024年2月期第1四半期	2.93	2.93

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、2025年2月期第1四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益の対前年同四半期増減率は、1,000%以上となるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第1四半期	3,470	1,046	30.2
2024年2月期	3,436	918	26.7

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 1,046百万円 2024年2月期 918百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期		0.00		0.00	0.00
2025年2月期					
2025年2月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,170	4.2	120		93		90		38.06
通期	2,358	0.7	224		6		3		1.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期1Q	2,567,064 株	2024年2月期	2,567,064 株
期末自己株式数	2025年2月期1Q	202,872 株	2024年2月期	202,832 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年2月期1Q	2,364,205 株	2024年2月期1Q	2,364,302 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、四半期報告書に合わせて、切捨てとしております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の収束を受けて社会経済活動の正常化が徐々に進み、企業収益の改善や個人消費の持ち直しの動きもあり緩やかな回復基調を辿りました。

その一方、長く続く円安傾向から輸入価格高騰による物価上昇、原材料・エネルギー価格の高止まりが続く中、日銀のマイナス金利政策解除や欧米各国の金融引き締め策の影響から経済環境は厳しさが残ると思われま

す。当アパレル業界では、アフターコロナの人流回復やインバウンド需要により市場環境は堅調に推移すると思われる反面、物価高騰の影響から、ミセス層を中心とした消費者の衣料品消費マインドは慎重さが続くものと思われ、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、生活者の価値観の変化、多様化に対応し、市場に適した価格での供給に取り組むことにより、販売数量のアップを図るとともに、適正利益の確保に努め、厳しい消費環境に対処してまいりました。また、固定費や変動費の抑制、合理化策を継続してまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5億45百万円（前年同期比25.4%減）となりました。損益面におきましては、販売費及び一般管理費の抑制に努めましたものの、営業損益は1億9百万円の損失（前年同期は8百万円の利益）、経常損益は雇用調整助成金ほか助成金収入2億8百万円などを計上し93百万円の利益（前年同期比889.3%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は91百万円の利益（前年同期比1211.9%増）となりました。

セグメント別の経営成績の概要は次のとおりです。

<卸売事業>

百貨店販売事業においては、既存顧客層の高齢化、若年層の消費多様化など、衣料品需要が減退する市場環境に対応して、消費者がお買い求めやすい商品価格に設定して集客力を高め、売上を回復することに取り組んでまいりました。顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。上顧客へは来促アプローチを積極的に実行しております。

また、従来の品質を保ちつつ、仕入原価率を抑制するために、少量多品種生産であっても市場に適した価格での供給を維持して粗利益率の改善を図ることを継続しております。

専門店販売事業においては、取引条件や不採算取引の見直しを継続するとともに、取引先単位の売上高確保に取り組み、収益面の改善に努めてまいりました。また受注リードタイムを短くし、リアルシーズン化を図ることで受注精度向上、店頭消化促進に努めるとともに、コロナ後の新たなアパレル卸として新規・新販路開拓に取り組んでまいりました。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は2億40百万円（前年同期比33.5%減）となり、営業損益は99百万円の損失（前年同期は46百万円の損失）となりました。

<小売事業>

卸売事業と同様、店頭の売上拡大が見込みにくい中、立地別、既存店舗単位の損益改善を第一優先として、お客様ニーズに合致する魅力ある品ぞろえ、販売促進策の実行により店頭活性化を図り、新規お客様の獲得に努めて、損益改善に注力してまいりました。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は3億2百万円（前年同期比17.8%減）となり、営業損益は0百万円の損失（前年同期は64百万円の利益）となりました。

直営店数につきましては、当第1四半期連結累計期間中に、新規出店、退店はなく、当第1四半期連結会計期間末の運営店舗数は当社グループ合計で32店です。

<福祉事業>

当社グループの社会福祉への取組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、引き続き採算性改善に努めております。

当事業の当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高3百万円（前年同期比26.8%増）となり、営業損益は9百万円の損失（前年同期は9百万円の損失）となりました。

なお、福祉事業に関しましては、就労支援事業運営費収入6百万円の営業外収益などがあり当第1四半期連結累計期間の四半期純損失は2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて34百万円増加し、34億70百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ25百万円の減少となり、17億84百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加47百万円などがあった反面、商品及び製品の減少49百万円などがあったことによります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ60百万円の増加となり、16億86百万円となりました。これは主に、投資有価証券の増加48百万円などがあったことによります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて93百万円減少し、24億23百万円

となりました。流動負債は前連結会計年度末に比べ93百万円減少し、13億72百万円となりました。これは主に短期借入金の減少47百万円、支払手形及び買掛金の減少45百万円などがあったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて0百万円減少し、10億51百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加6百万円があった反面、長期借入金の減少7百万円などがあったことによります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億28百万円増加し、10億46百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加91百万円、有価証券評価差額金の増加40百万円などがあったことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2024年4月19日に公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,279,117	1,326,846
受取手形、売掛金及び契約資産	243,143	250,530
商品及び製品	227,183	177,756
仕掛品	512	857
原材料及び貯蔵品	2,407	3,702
その他	58,807	25,902
貸倒引当金	△1,042	△1,036
流動資産合計	1,810,130	1,784,560
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,556	7,930
土地	941,058	941,058
建設仮勘定	1,100	2,750
その他（純額）	370	349
有形固定資産合計	944,084	952,087
投資その他の資産		
投資有価証券	429,968	478,853
差入保証金	176,565	176,565
退職給付に係る資産	71,699	74,006
その他	9,775	10,600
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	682,014	734,030
固定資産合計	1,626,098	1,686,118
資産合計	3,436,229	3,470,678

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	137,687	92,234
電子記録債務	6,084	13,663
短期借入金	904,160	857,002
1年内返済予定の長期借入金	—	7,196
未払金	321,911	305,638
未払費用	48,450	47,889
未払法人税等	13,787	8,805
契約負債	6,657	6,575
その他	26,610	33,311
流動負債合計	1,465,349	1,372,315
固定負債		
長期借入金	730,000	722,804
繰延税金負債	56,308	63,050
資産除去債務	156,042	156,047
長期預り保証金	3,708	3,708
訴訟損失引当金	100,000	100,000
その他	6,065	5,962
固定負債合計	1,052,124	1,051,573
負債合計	2,517,473	2,423,889
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	△5,205	85,949
自己株式	△246,156	△246,168
株主資本合計	627,901	719,045
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	227,917	268,295
退職給付に係る調整累計額	62,937	59,448
その他の包括利益累計額合計	290,854	327,744
純資産合計	918,755	1,046,789
負債純資産合計	3,436,229	3,470,678

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
売上高	731,223	545,756
売上原価	164,634	225,924
売上総利益	566,588	319,832
販売費及び一般管理費	558,196	429,156
営業利益又は営業損失(△)	8,391	△109,324
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	6,384	208,593
雑収入	1,917	1,447
営業外収益合計	8,301	210,041
営業外費用		
支払利息	4,712	7,422
雑損失	2,550	—
営業外費用合計	7,263	7,422
経常利益	9,429	93,294
税金等調整前四半期純利益	9,429	93,294
法人税、住民税及び事業税	2,481	2,138
法人税等合計	2,481	2,138
四半期純利益	6,948	91,155
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,948	91,155

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	6,948	91,155
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15,979	40,378
退職給付に係る調整額	△3,180	△3,488
その他の包括利益合計	△19,159	36,889
四半期包括利益	△12,211	128,045
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△12,211	128,045
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第76期（2024年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上しておりました。当第1四半期連結累計期間においても営業損失が続く中、取引金融機関からは借入金元本の返済猶予を受けており、継続して借入金弁済条件の変更交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していません。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

①卸売・小売事業については、

・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。

・百貨店、直営店売場など店頭VP（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。また、上顧客への来促アプローチを積極的に実行しております。

・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。

・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関への借入金元本返済猶予の依頼、政府による緊急経済対策に基づく各種税金及び社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金は13億26百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映していません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	361,203	367,312	2,706	731,223	—	731,223
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	361,203	367,312	2,706	731,223	—	731,223
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	361,203	367,312	2,706	731,223	—	731,223
セグメント利益又は損 失(△)	△46,647	64,724	△9,685	8,391	—	8,391

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
セグメント損失(△)	△99,541	△578	△9,204	△109,324	—	△109,324

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。